

別記様式（第3条関係）

開催記録

名 称	令和7年度 第2回会津美里町廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和7年8月29日（金） 午後1時30分から午後2時55分まで
開催場所	会津美里町役場本庁舎 庁議室
出席者	別添委員名簿のとおり 出席：7名 欠席：4名 事務局：町民税務課長 大竹淳志 課長補佐 遠藤 香 生活環境係長 小林正裕 建設水道課長 加藤定行 課長補佐 酒井新一 上下水道係長 谷澤貞倫 主任主査 河原田裕
議 題	・第3期会津美里町一般廃棄物処理基本計画について
資料の名称	
記録方法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録
内容	
1 開 会 2 諮 問 （1） 第3期会津美里町一般廃棄物処理基本計画について 3 会長あいさつ 4 議 事 （1） 第3期会津美里町一般廃棄物処理基本計画について 【資料に基づき事務局より説明】 （会長）基本計画38ページの人口推移と将来推計人口だが、ごみ処理、ごみの減量化、生活排水処理についても、この人口の数字がすべてもとになっている。あと5年後の2030年には、町の老年人口と生産年齢人口が逆転するということにかなりショックを受けた。ごみの量がどうなるのかというのは、当然、これからの私たちの生活のスタイルによって、生活の仕方、考え方、実際の行動の仕方によって相当変わってくるものではあるが、それと同時に、この人口推移によっても相当大きな変化をもたらす。町の担当部署のほうで、この人口推移についてどのように感じているのか。	

- (事務局) 人口減少は、全国的な課題であり、本町でも、以前から人口減少対策には力を入れて実施してきた。いかに人口増を図るか、こどもたちを増やしていくかというような施策に取り組んできたが、一方で、こういったショッキングな推計値も現実的にある。それを踏まえて第4次総合計画を策定しているが、少し切り替えた考え方も必要なのではないかというところで、今後、そういった取組みについても検討していかなければならないと考えている。
- (委員) 28 ページの3-1 生活系古紙類の分別化の取組内容のところで、燃やせるごみの中に雑がみ等が含まれているということだが、私も忙しさに紛れて燃やせるごみに入れてしまうことがある。雑がみ等を燃やせるごみに混入させない何か良い方法を考えていただきたい。
- (会長) 私の家では、手提げの紙袋に雑がみをどんどん入れて、最後に紐で縛って出すという方法でやっているが、それでもきれいな包装紙などがそのまま燃やせるごみに入っていたりすることがある。大人だけの家族でも、きちんと分別するというのはなかなか難しいなと思っている。今の意見に対して、何か町では良い考えがあるか。
- (事務局) 8月に、町民の皆さまに「古紙の分別早見表」を配布した。その中に先ほど会長がおっしゃっていたように、紙袋に入れて出すのが簡単ですよといったことも載せていて、取り組みやすいように、分かりやすい形で周知させていただいている。また、出前講座のときにも、そういった話をさせていただいている。
- (委員) 牛乳パックなどの店頭回収をもっと多くのところでやってほしい。それから、最近、発火事故の多いリチウムイオン電池の回収をぜひお願いしたい。また、食用油の廃油をどこで引き取ってくれるか、町民に知らせたほうがよいと思う。
- (事務局) リチウムイオン電池の回収については、今、会津若松地方広域市町村圏整備組合でも話が出ており、構成市町村とともに調整しているところである。
- (委員) 28 ページの使用済み小型家電のリサイクル促進のところだが、他の市町村では、使用済み小型家電の回収ボックスを設けているところもあるが、会津美里町ではどうか。
- (事務局) 本町でも、本庁舎の1階窓口のところに回収ボックスを設置している。基本計画の中に記載が漏れていたため、再度精査させていただく。
- (会長) 会津美里町は、小型家電の回収ボックスを設置したり、こども服のリユースコーナーを役場の一番目立つところに設置したりしている。やったほうが良いということ、即、実施しているという点は素晴らしい。できれば、もう一步踏み込んでリチウムイオン電池の回収もお願いしたい。
- (委員) この基本計画ではどのような取組みをするのが大事なところで、ごみのほうであれば第4章あたり、町民と事業者と町がどんなことをやっていくか、具体的な目標が22ページから29ページあたりに書いてある。前回の計画でもある程度同じ内容が記載されているが、継続してやることは継続してやることでよいが、新規でやることも入っていると思うので、継続、新規という表現を入れるなどすると分かりやすいかと思う。それから、25 ページに4つの柱がある。施策4がごみ処理有料化の検討だが、有料化の検討自体は減量の施策ではないのではないかと思います。有料化が導入されると減量施

策になるが、検討であれば、施策 1 か 2、このあたりに入れたほうがよいのではないか。

(会長) 今のことに関連して、「令和 4 年度福島県の一般廃棄物処理の状況」という資料で、3 ページに、生活系可燃ごみは県内 27 市町村で、つまり 46%の市町村で有料化している。不燃ごみについても、同じく 27 市町村が有料化していると出ている。11 ページでは、有料化の実施とごみ排出量の関係についてというところで、会津美里町だと人口 10,000 から 50,000 人の市町村の排出量、有料化しているところが 759 g、有料化していないところが 1,061 g で 302 g の差、28.5%の差があるということが出ていて、やはり有料化というのでも検討しなければいけないのだろうということで、施策 4 としてあげたのかと思う。そこは、再度、担当部署のほうで検討していただければよいと思うが、いかがか。

(事務局) 有料化については、前回の会議でも質問があり、担当部署の考えとしては、町民にできるだけ負担をかけないようにやっていきたい。ただ、計画策定の中で、有料化についてやる、やらないも含めて検討はしていかなければならないということで盛り込んだ。

(会長) 基本計画 10 年間の中で、これが完全にどこにも出てこないとなると、会津美里町は今後 10 年間も有料化については全く触れないのかという話になりかねない。だから、私は有料化について検討するというのは当然あげて然るべきだと思うが、あげ方をどうするかというところは検討いただきたい。

(委員) 生活排水の計画というのは、10 年間で個人が下水道とか合併処理浄化槽につなぐということもあるが、下水道の整備率という点では、これはもう町が予算を付けてやっていく、これしかないのか。

(事務局) まず、下水道の整備率、高田地域はまだ 10%以上残っているが、現状、管を入れる場所というのが、末端しかないという状況になっている。さらに、この中にも書いてあるが、土地利用方針が未定のところもある。全国的な話になるが、管を入れて接続率を上げるという方向よりも、単独処理浄化槽と汲取りをいかに減らしていくかになってきていて、そのため、合併処理浄化槽の普及促進を今後さらに進めていくという方向になってくると思う。さらに、人口減少が今後ますます進んでいくという中で、すでに出来ている施設、農業集落排水事業の処理場なども、今後このまま稼働させていいのかというところまでくるのが目の前に迫っているというような状況である。

(会長) 新鶴地域でもかなりの集落がなくなった。そのようなことを考えると、下水道などを整備しても、接続する家自体がないという状況も可能性としては増える。そうすると、先ほどあったように合併処理浄化槽で想定していく方法もありではなく、その方法しかないのではないかと思う。だから、町民の皆さんが、汚水は自分で処理しようと考えてくれればよいが、1 人暮らし、2 人暮らしではやろうという気にならないので、その辺の問題もあるのか。

(事務局) もうひとつは法律の問題もあって、都市計画区域の浄化槽処理区域内で合併処理浄化槽を、今、新規で入れることはできない。それは、下水道に接続しなければいけな

い。それで、伸びない状態というのが現状である。

(委員) 39 ページ、令和 6 年の生活排水処理率 52.4%というのは、この 17,332 人の計画処理区域内人口に対して 9,077 人がもう処理しているということか。まだ、半分ぐらいの人が接続していないということか。

(事務局) 接続している部分については 52.4%であるが、実際、つなげば下水に流せるというものを入れれば 74.3%になる。これは 40 ページに出ている。本町の場合、合併処理浄化槽については個人設置型しかいないため、補助金が出るのだが、合併処理浄化槽区域の普及率がやはり低い。

(2) その他

【事務局よりスケジュールの説明】

5 その他

【事務局より事務連絡】

6 閉 会

以上、開催記録として報告します。